

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	総務部 人権推進課	令和5年度
記入団体名	「テレジン収容所の幼い画家たち展」実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	テレジン収容所の幼い画家たち展		
協働事業の概要	令和5年12月5日～10日まで 川越市立美術館にてテレジン収容所の中で描かれた絵のパネル展示「テレジン収容所の幼い画家たち展」を実施。 12月9日 アートホールにて野村路子さんのギャラリー・トークを午前、午後2回行う。「野村路子さんの32年間の活動」展示 「訪問授業」を4つの小学校（高階南、新宿、古谷、山田）で実施。		
協働事業の決算額	405,035円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和5年6月26日 ～ 令和6年1月22日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平 均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回で三回目となる協働事業ということで、適切な役割分担で事業を進められたと思います。

美術館での事業実施期間中は、絵の展示会、新しい企画であるギャラリートークとも、多くのお客様が足を運んでくださいました。当事業をとおして、命の尊さや生きることの喜び、そして平和の大切さを多くの方に伝えることができ、人権思想の普及高揚に貢献する事業であったように感じています。

【市民活動団体等】

協働事業という事で今回も市立美術館の市民ギャラリーとアートホールを前もってお借りでき、計画的な周知活動がスムーズにできましたこと、大変有難いことでした。

同じ企画では、3回しか継続できない決まりがありますので残念ですが「テレジン収容所の幼い画家たち展」は今回が最後になりました。私たちだけの力ではとてもできないことを実現させていただき川越市の協働事業のご支援を心から感謝しております。今後も長く「テレジンを語りつぐ活動」を継続して行きたいと思います。

テレジン収容所の中で描かれた絵の作者は10歳から15歳の子どもたちです。同年齢の子どもたちに美術館に来て見て欲しいと学校にチラシをお届けしてお知らせいたしましたが、前回も期待したほどではなかったため、それではこちらからと企画した今回の「訪問授業」は、「生きる力と平和」～テレジンの子どもたちの絵を通して～をテーマに小学校4校で実施することが出来ました。協働事業という事でしたので学校側のご理解も頂け実現いたしました。初めての企画でしたので反省点もたくさんありますが、今後はそれらの課題をしっかりと踏まえて小学校・中学校への「訪問授業」を続けていきたいと強く願っています。

今後ともご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	8	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	2	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・限られた資源を今後、展示だけでなくどのように活用し事業の目的を達成していくのか大きな課題が残っているように感じる。

・人権意識の啓発を主としたものとして、協働事業としての意義は大きいのではないかと思います。訪問授業といった活発な活動も見られるようになったことは、事業としての成熟が進みつつあるのではないかと感じています。

・今後、人権という視点からこの「テレジン」という題材をどのようにして展開していくのか、考えどころだとは思いますが、行政、団体の交流を通じて、より良い事業を目指していただければと思います。

・6日間で700名を超える入場者があったこと、「学校訪問授業」との相乗効果があったと思います。今後もこの事業を継続をするなら、人権推進課と連携し教育委員会に働きかけるべきと考えます。

協働事業名称	テレジン収容所の幼い画家たち展
--------	-----------------

【事業に関するコメント】

- ・資金については、県や企業等も様々な補助金がありますので、担当課と相談するのも良いと思います。
- ・来場者や「訪問授業」のとき、アンケートを取ったのであれば拝見したい。
- ・市立美術館と霞北公民館で2回の講演を拝聴しました。テレジン収容所で子供達の絵を見る機会がありましたが、建物の前に道路しかない絵を見て、なんかむなしい思いがしました。
- ・小学校・中学校への訪問授業は、今後も続けていってもらいたい。子供達に平和について考えてもらう良い経験になる。行政の力で学校での継続授業としてもらいたい。
- ・協働事業として3年目（最終年）で、過去2年の経験を活かし、訪問授業を実施され、新たなフェーズに入られたようですね。
- ・今後も“訪問授業”は実施されるようですので、地道な活動を通じて多くの賛同者を得られる事を祈念します。
- ・担当課は引き続き、この事業が庁内で展開しやすいように教育委員会などこの団体をつないでほしい。
- ・川越の子供達にとっても素晴らしい経験になると思う。
- ・野村路子さんの講演会などを人権推進課として企画していただきたい。
- ・「テレジン収容所の幼い画家たち展」私達に命の尊さや生きることの喜び、平和の大切さを伝えてくださいました。3年間展示等で、多くの市民が感銘を受けました。今後も色々な場所で伝えてくださいますようお願いしています。
- ・3回とはいえ、大きな広がりに関心を起こす事業であったと思います。
- ・団体の「語りつぐ」意思をバックアップし、川越市が「人権重視」する立ち位置を示す為、例えば、絵画は美術館で常設展示するとか、又、教育委員会経由し定期的な「訪問授業」ができるよう、行政をお願いします。検討下さい。
- ・命の大切さ、平和の尊さを学び、伝える、非常に意義深い事業です。多くの人に目的や趣旨を理解してもらう為には、努力とエネルギーが必要と思いますが是非頑張ってください。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	教育総務部 教育財務課・地域教育支援課	令和5年度
記入団体名	川越igoまち倶楽部	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業		
協働事業の概要	市内32の小学校に併設された「学童保育」と1か所の「放課後子供教室」を対象とし、囲碁に親しみ、楽しく学ぶ環境整備をサポートする。囲碁の習得のみならず、囲碁が持つ力（思考力・集中力・忍耐力等）を活用し、子どもの人間力育成と多世代交流による安心できる居場所づくりを目指す。具体的な事業は以下のとおり。 ①キャラバン隊の講師・スタッフを対象とする教え方勉強会実施 ②学童保育支援員等を対象とした囲碁勉強会実施 ③学童保育・放課後子供教室への囲碁指導キャラバン隊派遣 （学童保育：24校 445名参加、放課後子供教室：3回 44名参加） ④アンケート調査による事業検証・実施報告書作成		
協働事業の決算額	352,961円	補助金額 （※提案型補助金の場合）	173,000円
事業の実施期間	令和5年4月5日～令和6年2月20日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3.5	5	4.25
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	30.75 点
------	---------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

（地域教育支援課）

放課後子供教室において1回、実施できなかったことについて当課においても改善する。打ち合わせから実施する日まで期間が空いてしまった場合、実施日前に、担当者へリマインドする等再発防止に努める。

（教育財務課）

本年度も川越igoまち倶楽部さんの精力的な活動により、昨年度同様無事終わることができました。

実際に実施した学童保育室からは、夏季休業期間は酷暑のため外に出ることができない日が多い中、室内で行えるイベントとして有難かったとの声が多く挙がりました。また、集団で対局するなどの子ども達が飽きない工夫も行っていただきました。

恒例行事として定着できればさらなる発展があると考え、引き続き協力して事業を行っていきたいと考えます。

【市民活動団体等】

長期休業期間中のプログラムの一つとして定着しつつあると実感している。特に夏休み中のキャラバン隊は、猛暑の中シニア講師では負担が大きいため、囲碁に精通した大学生・高校生・親子囲碁教室の保護者、および中学生（キッズサポーター）に声がけし、協力が得られ、心強く感じた。

9月には夏休み中にキャラバン隊を派遣した学童保育室を対象にアンケートを実施、結果をスタッフで共有するとともに、改善できる部分は改善するよう努めた。

10月12日の「のびのびスクール」を実施できなかったことの反省を踏まえ、情報共有のあり方を検討、業務運営体制の見直しを行った。これは単に再発防止にとどまらず、より効率的な組織運営につながるものとして前向きにとらえたいと考えている。

引き続き、事業の根幹に据えたコンセプト「囲碁を通じ、子どもたちの未来を拓く！」～の視点を関係者と共有し、その可能性を追求していきたいと考える。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	4	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	3	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C	3	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・事業の最終目標を何か、目標を見据えた活動内容を考え実施してほしい。今年度の活動で当初のどの目標が達成されたのか、もう一つ明確でないように感じる。

・事業の1回がミスで実施できなかったことは残念であるが、囲碁というツールを用いて子供達にアプローチしているというやり方は理に適ったものであるし、実際に成果も一定のものがあるように思います。

・囲碁という比較的高齢の方々を持つスキルを役立てるという視点からもユニークであると感じているところです。

・1回実施できなかったとありますが、提案団体内の情報共有との在り方を再度確認して下さい。

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業
--------	---------------------

【事業に関するコメント】

- ・夏期休業では、子供達を酷暑の中、外部での遊び等ができないことを考えると室内で囲碁等をすることは良かったと思います。
- ・提案団体はigoまち倶楽部と称しているので、無理かと思いますが将棋を教えることはできないでしょうか。
- ・子供の居場所作りの1つとして大変良いことだと思います。
- ・団体の皆様の活動には頭が下がると思います。そんな中、大学生や高校生等の協力があつたことは、尚更に素晴らしいことだと思います。児童の知能も上がるに違いないと思います。
- ・学校にもキットを渡しているのは、子供達もコミュニケーションがとれるので良い。川越以外の方も応援している。
- ・実施された事業の評価が高いことは喜ばしいことです。一方、“失念”が原因で事業が実施されなかったことは、非常に残念。原因が単純ミスなので、この点について具体的な対応策を決めて報告することが、次年度へ向けて肝要なことと思う。
- ・川越の子供達のためにとても良い事業だと思う。
- ・学童、市民、行政の事業モデルケースとして定着してほしい。
- ・支援員へのアンケート、キッズサポーターなど素晴らしい。
- ・委託事業への移行を担当課は考えてほしい。
- ・囲碁に精通した大学生、高校生、親子囲碁教室の保護者、中学生に声掛けし、協力が得られたことはとても良かったと思います。
- ・今後とも身近な方へ呼びかけをして続けていただきたいと思います。
- ・良い事業だが、実施した中では、日程マネージメントに課題があるようです。又、協働事業が終了した場合の継続性についても資金面で不安があります。（講師謝礼が大きい。）
- ・「地域で子供を育てよう」という点は評価できる。しかし、子供を育てる手段を囲碁とするならば、囲碁で良かったと言う、子供の興味、関心度を定量的に評価できる仕組みづくりのようなものが必要だろう。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	防災危機管理室	令和5年度
記入団体名	株式会社小江戸FM	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	コミュニティラジオでアクティブ防災		
協働事業の概要	・防災を遊んで学ぶイベント「あそぼうさい！まなぼうさい！」開催(9月) ・【防災士】田中緑様によるステージイベント、ワークショップ、ラジオ出演。ラジオ出演では川越の河川と水害ハザードマップを中心にお話しいただきました。(8月) ・昨年災害協定を結んだNTT東日本埼玉西支店 支店長丸山猛様のラジオ出演。災害伝言ダイヤルを中心にお話しいただきました。(12月) ・株式会社メディアトライ【防災士】【一般社団法人防災共育協会認定講師】宮下直紀様のラジオ出演。災害時のラジオの重要性を中心にお話しいただきました。(1月)		
協働事業の決算額	410,856円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和5年5月～令和6年1月		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	29.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

令和5年9月にクレアパークで実施された「あそぼうさい！まなぼうさい！」では、広報川越での周知に止まらず、事前に市内小中学校全クラスにチラシを配布したことで、親子連れで参加する方が非常に多く見られた。

また、その他防災に関するラジオ放送を通して、市民の防災意識の向上を図ることやラジオでの情報の取得等について周知することができたと思う。

【市民活動団体等】

「あそぼうさい！まなぼうさい！」のチラシが全小中学校に行き渡らない可能性があり、参加人数が心配でしたが、昨年同様の親子での参加が多くみられました。昨年には無かったステージイベント、消防車の展示、防災ラジオの展示、水害ハザードマッププリントサービスで内容の濃いイベントになったと思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	2	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	7	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C	1	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・市民の防災意識の向上のための不断の活動は必要だと思う。この活動を今後どのような到達点にもっていきたいのかを更に明確かつ具体的に示すことによって更に事業の意義が感じ取られるようになるのではないかと考える。

・こういったイベントの実施については、やはり民間団体の側に分があると感じました。一方で、行政側が「防災」という視点からどのように関わっていくのかがあまり明確ではないように見えます。川越市民に行政としてどのようなことを意識してもらいたいのかをより積極的に考えていただければと思います。

・全ての項目で評点が4になっていますが、5でないのは反省すべき点があると思うのですが知りたいです。

・収支決算書で予算額と決算額が同額になっていますが、あくまで予定だからでしょうか。

協働事業名称	コミュニティラジオでアクティブ防災
--------	-------------------

【事業に関するコメント】

・クレアパークで実施された「あそぼうさい！まなぼうさい！」では、親子連れの参加が大変多く広場でのイベントやステージ、ワークショップ、展示ブースも増えて何処で何をしているのか確認するのが大変でした。

・参加者の増加は結構なことですが、逆に遊び感覚になっていることを感じた。今後、同様の事をするのであれば、場所移動も必要かと。例えばウェスタ川越のイベント広場とか。

・あそぼうさい！まなぼうさいを参考にし、自治会で行いました運動会に役立たせていただきました。

・災害伝言ダイヤル、防災ラジオの必要性。あそぼうさい、まなぼうさいを通じて、防災意識が深まっている。特に水害について、これからは勉強するべき。支援者の誘導等、常に考えていなければならないものだ。

・今年は元旦早々から大災害がありました。これらを踏まえ、今年度の具体的プランは何なのでしょう？身近な問題として、十分に認識させるために繰り返し行動することが大事かと思いますが。

・クレアパークでのイベントの参加人数なども報告していただきたい。

・ラジオと防災はとても良いテーマであるので、継続していただきたい。次回は、大きなところでやってほしい。楽しい防災企画は必須の時代です。

・トイレ、体育館でのざこ寝問題、女性と防災などテーマは多いので行政は色々な切り口で防災を啓発してほしい。

・他団体ともコラボをすることも検討してほしい。（担当課）

・防災に関する事業は大切です。親子で参加できる学校を2～3校ずつ呼びかけ、市民の防災意識の向上を図っていただきたい。

・事業目的がイベント開催を通じた防災意識向上となっており、その目的は達成したように考える。だが今後継続するためには、それだけでなく、ラジオというメディア手段を活かした防災事業に取り組んだもらいたい。（自治体や自治会の実施する防災イベントと似てしまう。）（あまりよい例がないが、水でいうと水位情報を出すとか、道路の交通情報など。）

・質の高い番組作りを期待しつつ、この取り組みが広く市民に浸透していく仕組みづくりを望みます。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	建設部 河川課 ・ 環境部 環境政策課	令和5年度
記入団体名	川越的場八景蟹ヶ渚再生する会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ渚再生事業		
協働事業の概要	蟹ヶ渚は的場地内にあり、かつては湧水が下流域を潤し、産業に貢献した。その後、草木は繁茂し、人々が近づかないため、不法投棄により荒廃してしまった。 再生する会は、本市提案型協働事業の趣旨に従い、定期的に清掃活動を展開している。除草作業、花壇づくりのほか、渚北側の耕地化や水路周辺の遊歩道化を進める。 ○定期的に除草等の清掃活動を行う ○ひまわりやサツマイモを植え付け耕地化を進める ○渚の下流側の水路両岸の遊歩道化を進める		
協働事業の決算額	50,818円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	20,000円
事業の実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月30日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	3	4	3.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	4	3.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	4	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	4	3.5

合計点数	23.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

提案団体が定期的に清掃活動等の維持管理を行っていただくことで、草刈業務に係る財政負担の軽減や周辺の不法投棄の減少に繋がると考えています。

また、継続的に事業が実施されることで、地域の方々へ憩いの場を提供することに大きく寄与する事業であると考えます。

今年度は行政財産使用許可申請書の提出があり、当該地の使用を許可していることから、今後も協働事業が継続できるよう、双方で課題等を整理していきたいと考えます。

【市民活動団体等】

事業計画に従い、事業を遂行できた。また、耕地草刈りや花壇除草等の清掃活動を定期的に行った。今年度は水路兩岸の遊歩道化に着手することができたので、今後は市の協力を得て、官民境界を明確にし散歩コースとして整備していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	2	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	6	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C	2	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・市民への汎用性ということでは、なかなか難しい事業であるように感じる。具体的に今後どのような道をたどりたいのか、もう一度再考する必要があるように思う。

・自己評価としては低めになっているが、事業の性質自体は協働という手段とマッチしやすいものだと思います。おそらくは双方の求めるものに食い違いがあるのかなと思います。協働を進める以上は、お互いのコミュニケーションを密にすることが肝要だと思いますので、そこに気をつけて進めてもらいたいと思います。

・評価シートを見ると団体と担当課と多少のズレがあるように感じられます。課題等を整理し、情報交換や情報提供を密にすべきと考えます。

・団体は環境保全と憩いの場を創出すると明確な考えのもと活動人数を増やし、草刈や除草等を定期的実施し、団体の目標に近づいていると思われます。

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ淵再生事業
--------	---------------

【事業に関するコメント】

- ・カボチャを１００個幼稚園に寄付は驚きです。
- ・事業記録もしっかりしており、是非継続をお願いしたい。
- ・歴史的にも重要な場所を子供達のために美しく残すことは、我々大人のすべきこと。
- ・大切な事業だと思います。もっとお金を使って良いのでは。人件費も。
- ・何もしなければ、地域の負の財産であったものが、本事業の実施により、プラスに転化していったものと理解します。
- ・今後は更に協働事業の成果として、成功例になるように期待します。
- ・「的場八景」知りませんでした。子供の頃、遊んだ地を次の世代に残したいという熱意が素晴らしいです。
- ・市民自らが自分の地域を耕す、是非モデルケースになってほしい。
- ・ビフォー&アフターを記録して、行政も市民協働のモデルとして市のHPなどで発信してほしい。
- ・敬意に値する活動です。
- ・今年度は幅広く活動されています。
- ・地味な活動ですが、継続的に実施される事で、地域の方々の憩いの場となりコミュニケーションが生まれ素晴らしいと思います。続けていただく事を望みます。
- ・視察してみて、荒れていたという状況が判らない程になっていると感じました。結局は植栽や除草、畑地手入れ等、人手をかけていかないと維持できないと思います。これからも継続して良い散歩場所にして下さい。
- ・協働事業として、行政、協働主体が共に理解し、どのように連携を図っていくのか、単なる清掃活動に終わる事なく、課題を整理する必要がある。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	市民部 地域づくり推進課	令和5年度
記入団体名	新宿町五丁目自治会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	新宿町五丁目 地域デジタル化		
協働事業の概要	新宿町五丁目内のICT化を図る目的で、複数年かけて、身近で必要なところから改革に取り組みます。自治会内にデジタル化特別委員会を置き、お知らせや回覧物等のデジタル配信、町内防災訓練でデジタル無線安否確認訓練、デジタル化状況調査と操作説明会を実施します。		
協働事業の決算額	373,647円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	130,000円
事業の実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月30日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	32 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

主に団体側が企画実行し、市側がアドバイスや情報提供等を行う形で役割分担し事業を実施してきました。互いに話をする機会を多く設け、信頼関係を築いて事業を実施できました。

昨年度開設したSNSの登録者数が増えたり、公開した動画の視聴回数をみると徐々に成果が表れてきたように感じます。

さらに、今年度は防災訓練で実施したデジタル安否確認訓練の結果も現地で聞くことができたとともに団体の熱量を肌で感じる事ができました。

来年度は3年目となりますので事業の成果等の検証も行いながら、市としても協力していきたいと考えています。

【市民活動団体等】

地域デジタル化を自治会発案による事業として受け入れ協力していただき、非常にありがとうございました。

継続2年目も概ね計画通り遂行しました。複数年進める中で、新型コロナウイルス感染症流行による新しい生活様式やデジタル社会の進行を踏まえ、今後、地域がデジタル環境を使って取組むべき方向性が見えてきました。

継続最終3年目は、これまでおこなってきたことを踏まえ、他地域でも取り入れ持続する仕組みをマニュアル化するように取り組んでいきます。

所管課には事業を支援いただき、情報提供や地域への好事例紹介等を期待します。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	9	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	1	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・当該団体も言うように今後は他地域との連携をすることで、市内の1つの動きになってほしいと期待している。

・事業としてかなりこなれている所があると思いますので、デジタル化が進行したことを前提とした新しい取り組みにもチャレンジしてみるもの面白そうだと感じています。

・自治会の基本はあくまでface to faceと思いますが多様化し、またコロナ感染症などにより、その中でSNS等を利用した自治会活動を推進、持続することはこれからの自治会の在り方の1つであり、その成果を期待しています。デジタル安否確認は要支援者への1つの在り方だと思います。

・地域だけでなく市全体に波及するといいですね。

協働事業名称	新宿町五丁目 地域デジタル化
--------	----------------

【事業に関するコメント】

- ・シニアのデジタル参加を増やしている。
- ・デジタル化への環境を整える。
- ・eスポーツ等で親しむ。
- ・動画で発信。→コミュニケーションツールとして利用している。
- ・安否確認のメリットがあった。（シニアの参加が増えているのが特に良い。対面も増えている。他の地域も増えていくと安心。）
- ・これまでの体験・知見を踏まえ、更なる成果を期待します。パイロット的な取り組みなので、行政側には、他地域（自治体）での先行事例（良い面、悪い面）の情報収集し、団体に情報提供する事を望みます。
- ・先進的な事例で是非、他町内会のモデル事業としてほしい。
- ・シニアのスマホ講座は他町でも展開、需要があると思う。
- ・地域デジタル化を自治会発案による事業として活動されすばらしいと思います。今後とも多くの人々が理解できるよう続けられることを望みます。
- ・難しく、又、成果を図りにくいテーマですが、着実に実績を積み上げられていると感じます。
- ・取り組み事業は他自治会への波及が期待できます。これからも自治会運営のトッパーンナーとして取り組んで下さい。
- ・社会問題、地域問題を踏まえた事業であると評価できます。今後も地域の方々の多様なニーズを継続して取り込むプロセスを確立してほしいと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	令和5年度
記入団体名	登川直穂子リサイタルin川越・実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	登川直穂子音楽振興事業		
協働事業の概要	世界のオペラの舞台積極的に活動が続けてこられた登川直穂子の歌声を川越にお住まいの方々に広く知っていただきたい、また音楽に興味があるけれど身近で指導者にめぐりあえない子どもたちに唄うって楽しいを、伝えていきたい。 ①8月に2日間の子どものための声楽ワークショップ。ウェスタ川越小ホールでみんなの歌いたい歌を個別指導。参加者：10名・9組（小5から中3まで）女子8名、男子2名 2日目には、家族を招いてミニ発表会を開催。 ②1月20日 ウェスタ川越小ホール、市民に向けたコンサート。高校生以下は無料。参加者は200名(予定) 無料招待者も含む。 ③2月14日 ウェスタ川越小ホール 特別支援学校公演。参加者70名（予定）		
協働事業の決算額	676,157円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和5年8月2日～令和6年2月14日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

事業実施前及び実施中に綿密に情報交換を行い、連携をとって事業を実施することができたため、互いの役割で効果を発揮し高い効果を生むことが出来ました。

今回実施した、「声楽ワークショップ」また、実施予定の「学校コンサート」は若い世代が音楽に触れる機会としても非常に良いものであったと感じます。是非、これからも継続してこのような活動を実施してほしいです。

【市民活動団体等】

以前別の団体で協働事業に3回ほど取組んだ時と比較すると、申請前の担当予定の部署との打ち合わせもその後の事業の取組も、格段に良かったと感じました。

メールでのやりとりもスムーズ、公式LINEなどのSNSの活用、WS申込みの電子申請等、本当に沢山協力していただきました。残っている事業も、無事に開催できると確信しています。

ただ、ウェスタなど1年前に会場を押さ会場費を支払わなければならない施設もあること、採択後の支払でなければ経費として認められないことなどを考えると、今後はウェスタを使っての市民に向けてのコンサートは困難だと思い知りました。提案が通らなければ、キャンセル料含め団体の負担です。ウェスタのホールを使用しての事業は完全に無理です。

申請の時期、実施、報告など単年度で取り組むには、新規の団体にはとてもハードルが高いとおもいます。報告時期など考えると、12月中に活動が終わらなければ厳しい。

また、終了後の報告時期にしても、行政の都合であるとは推察はできるが、市民にも忙しい時期に集中しています。市民団体二年金生活者や無職・経済的余裕と時間のたっぷりある方とは限りません。

市民と行政と一緒に様々な事業に取り組むことは、大変素晴らしいことだと思っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	4	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	3	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C	3	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・この事業が協働事業の成果として、具体的にどのようなことを残すのかよく理解できない。

・団体の思いだけでは、協働事業に期待する汎用的な側面が見えないように感じる。

・単発のイベントではなく、継続性のある事業として実施していただき、その延長線上に大きなイベントを開催するのが理に適っているのではないかと思います。

・まずは事業目的としての音楽に親しむ環境を作り上げていくことを目指す必要があると思います。その意味でワークショップの充実が今後の方針としても良いのかなと感じています。

・入場料が39万円あり、支出の部との整合性がとれたと考えられます。

・団体は登川直穂子を中心にワークショップや学校コンサートを行っていますが、音楽全体として考えられるなら、音楽、声楽関係の団体は数多くあります。担当課はこのような団体との連携を図るべきと考えます。

協働事業名称	登川直穂子音楽振興事業
--------	-------------

【事業に関するコメント】

- ・1月20日（土）に行われたリサイタルは、素晴らしいものでした。
- ・委員会の予定では150名を予想していたのが、200名を超える老若男女がリサイタルを楽しんでいました。
- ・ソプラノとしては、やや低いと思いましたが艶のある伸びやかな歌声でした。大変素晴らしかったです。
- ・QRコードをチラシに付ける。QRコードで自主的に申し込んでくれた。
- ・子供達の自主的な学びは、特に大きな目標の1つになったと思う。
- ・協働事業に新規参入で事業処理等で、種々戸惑ったようですが、事業成果はそれなりにあったとの事。
- ・2年目は昨年度の知見を活かしてより良い成果をあげて下さい。
- ・個人の名前を付けたタイトルは協働事業には違和感がありました。
- ・内容は団体の努力で素晴らしいものになったと評価します。
- ・ウェスタ川越を助成金事業で使うことの難しさやスケジュールなど、問題提起もしていただき、行政も課題が多いことを知ってほしい。
- ・世界のオペラの舞台で活動을続けてこられた登川直穂子氏の歌声を直接聞くことができました。子供の頃、普段は聞くことのない音楽や舞台芸術に触れた経験は、大人になった時、大きな財産になると思います。今後とも音楽活動を続けていただくよう希望します。
- ・ワークショップ等の取り組みは、まさに協働事業として相応しいと思います。会場予約や事業実施や報告時期については、行政も考えるべき課題と思います。
- ・卓越した実績と深い造詣に基づく事業展開は、評価できます。一方、申請の時期、実施、報告方法においての課題提起がありましたが、これは協働事業というスキームの中で申請時に確認すべき事案かと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	市民部 地域づくり推進課	令和5年度
記入団体名	仲町青陵会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	仲町地域交流会活動事業		
協働事業の概要	仲町の子ども達・次世代へ自分の住む町の魅力を知る為の事業です。仲町とはどんな町か川越祭りに参加する町内とはどんな事を行っているかなど、地域を知るきっかけになり、地域の方と交流していくことで、世代を越えて交流を促す事業となります。仲町の町の中にはどんな人が住んでいるのか、どんな商売をしているお店があるのか、蔵の街とはどんな町なんだろうと子供たちが疑問に思っていることも、交流の中で答え合わせをしていく事を目的としています。 更に、今後新たなマンションの建設で新しい世帯が増えることも考えての交流会となります。この事業内容を今後は市内の次世代世帯への参加型交流事業にしたいと考えております。		
協働事業の決算額	86,041円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	30,000 円
事業の実施期間	令和5年8月27日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	29.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

申請から実施までの期間が短い中、団体と協力しながら円滑に事業を進めることができました。今後、マンションの住民が増えることにより、自治会への加入や川越まつりへの勧誘等、仲町では次世代世帯に対する取組みが重要になってきます。

伝統的な蔵造りの町並みがある一方で、町内で子供達が少なくなっているのが仲町の現状です。

今回の事業は、仲町を活性化させるきっかけになったと考えておりますが、今後は川越まつりも交流事業に入れて、多くの方々が交流ができるような事業にしていきたいと考えております。

【市民活動団体等】

今回第一回の実施に当たり行政と共に協働事業が出来た点では大変良かったと思います。今年是一回目の開催という事で、実施内容にまだまだ改善の余地などもあり、来年以降継続事業として町としては行いたいと感じている為、継続の為の内容をもっと良いものにするように当会として内容のリバイスを強く感じました。まずは今年の参加者のアンケートや会話の中で改善点を、来年までに変更できるように調査して来年の事業に繋げたいと思います。

特に来年は新しいマンションの建設が終わり、100世帯ほどが仲町の町内に増える為、マンションの世帯等町の事が分からない世帯に向けて、もっと分かりやすく、そして町の魅力を知ってもらえる内容に出来るようにしたい考えです。

来年も事業を継続したいと思いますので、よろしくお願い致します。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	4	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	6	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・川越が課題とする「地域性、地域の特性、他域への愛着」といった気持ちの継承のために必要な事業であり、もっと他の地域にも広まってほしい。川越の地域性をどう残し、継承するかサミットのようなものが開催されることも期待する。

・課題を発見し、それを団体と行政双方が認識できたことは、協働事業として大きな意義があったと思います。今後は、発見した課題の解決に向けて取り組んでいただければと思います。

・蔵造りの町並みがあり、一方ではマンションも増えることで新旧の住民がいる自治会の運営は大変だと思います。

・このような子供を取り入れた事業は、運営する団体も工夫が大変だと思いますが、やりがいのある事業とも考えられます。

協働事業名称	仲町地域交流会活動事業
--------	-------------

【事業に関するコメント】

- ・醤油蔵が楽しく発酵しているのが凄かったとアンケートに書いてありますが、ハンコ制作もそうですが、お店の方々から話を聞いている姿が想像できます。
- ・次回は川越祭りへの参加等工夫を加えながら継続していくことが大切だと思います。
- ・子供が自分達が口にしてしている食物には、非常に興味があることで大変良かったと思います。
- ・子供達が育っている町を大切に思うような活動である。
- ・体験型の見学で良かったと思う。
- ・大人と子供の交流がひいては町おこし、町の保存に繋がる。
- ・交通問題がある。地図を作ると面白いのでは。
- ・今回は初年度ということで、試行錯誤しながらも、当初の目的を達成した有意義な事業であると思います。
- ・来年度は今回の知見、反省を踏まえ、より良い事業計画を作成し、地域活性化の基礎作りの一助にしてください。
- ・来年度には100世帯ほどのマンションが完成し、新規住民が増えます。彼等も巻き込むようなプランを期待します。
- ・川越祭りの維持に関して旧十力町で担い手不足で悩む町内も多い。（新しいマンションを建てられないなど）
- ・今後は他町内役員との情報共有などモデル事業としてほしい。
- ・子供達にとっては、大変楽しいイベントになったと思います。
- ・マンションの住民が増えることにより、自治会への参加加入が少なくなっていると思います。
- ・川越の良さ、川越祭り等の行事、事業等、町の魅力を知ってもらえるよう計画を立て伝えていただき多くの方が交流できる町作りを願っています。
- ・初年度として実現でき、目的とした若い世代と交流できたのは良かったと思います。川越は「川越祭り」という資産があるが、これを継承していくことがどの山車持ち町内でも課題です。是非、良い先例をお願いします。ただ決算書をみると食糧費が多いようで、会費制とか考えるべきではと感じました。
- ・多様なニーズを持つ住民間の醸成を図るにはご苦労が多いことだと思います。達成水準や目標を明確にした取り組みが重要だと考えます。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	産業観光部 農政課	令和5年度
記入団体名	仙波の田んぼ緑肥の会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	「仙波の田んぼで季節を感じ、食を味わう」農業振興事業		
協働事業の概要	仙波の田んぼ緑肥の会は『農家と消費者との新しい関係構築』を活動方針としています。 協働事業では、「小さくても密度の濃いコミュニティの形成」を目的に田んぼイベントや農業体験を開催、会報を発行し、米農家に興味を持つ農家ファン（準会員）獲得・農家を応援する農家サポーター（正会員）獲得を目指します。		
協働事業の決算額	500,427円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年2月29日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	5	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	31.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今年度をとおして様々なイベントを開催し、農家と近隣住民の連携を深めておりました。当初、予定のなかった「会報」は農作業の大変さや用語など分かりやすい説明となっており、農業の入門として適していると思います。

また、「新たな気づき」もあり、大きな収穫となったと思います。今回の事業の経験を活かし、継続的な事業となるよう協力していきたいと考えます。

【市民活動団体等】

協働について、アドバイスばかり頂き、大変助かりました。

行政から更なる力をお借りできるように、更に大きな成果を達成して行きたいと感じました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	5	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	4	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C	1	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・日本にとっての大きな課題にもつながる事業でもある。今後は事業内容の工夫と継続が求められると思うが、しっかりとした目標をもって進展してほしい。

・今年度はスタートアップ的な性格が強かったようですが、今後の展開に期待が持てるものであったように思います。同時に協働事業の難しさを感じることもあったようですが、団体・行政の連携を通じお互いの関係を濃いものにしていただければと思います。

・当初はかなり画期的な取り組みであり、期待半分、不安半分といったところでしたが、うまく運営していただけたのかなと思います。

・プレゼンの時の印象は2～3家族で楽しむ自己満足的に感じましたが、評価シートに記載されている内容は大成功と言えるのではないのでしょうか。また、近年、子供達が土に触れる機会が減り、野菜などの旬が分からない時代になってきました。子供達にも楽しく農作業を手伝ってもらいながら継続な事業となるようお願いしたい。

・農家と住民のコミュニケーションが深まることは何よりです。広く川越の皆様にも知られるような活動になってほしいと願います。

協働事業名称

「仙波の田んぼで季節を感じ、食を味わう」農業振興事業

【事業に関するコメント】

- ・会員が増えたらどんな目標になるのか農家の皆さんのメリットになったら嬉しい。
- ・ファンやサポーターが増えることを願っています。
- ・子供の環境教育にもなる。音楽と新米の組み合わせも良い。
- ・今年度、成果を踏まえ、協働事業としてのレベルアップした事業計画を望みます。
- ・町と農家が近いというのが、川越の特色の1つ。昔は大仙波の農家も川越祭りの山車でおはやしを演奏していたと聞きます。
- ・農家と町の絆を取り戻す活動として期待しています。
- ・日本は色々な食物を輸入に頼っていますが、気候の変化により輸入できなくなった時、唯一自給自足できるのがお米です。しかし農家の若者が農家離れが進んでいます。
- ・参加者が緑肥を使った土づくり、減化学肥料栽培等、楽しみながら米作りへの理解を深めることができたと思います。又、「会報」は農作業の大変さや用語がわかりやすい説明で農業入門として役立つと思います。これからも活動を続けていただきたいと希望します。
- ・事業として年間通した活動ができたと考えます。又、参加人員も初年度で50名という輪の広がりには大きな財産ですね。今年度以降も期待します。
- ・発想は評価できますが、協働事業として考えた場合、メッセージ性が乏しく感じます。目標、効果を明確にすべきだと思います。